

令和5年度 研究紀要

研究主題

探究的な学習活動を通して

主体的に学び続けるための資質・能力を高める指導の工夫

—読書科・総合的な学習の時間における授業改善とカリキュラム・マネジメント—



=目次=

I	はじめに	1
II	研究内容	2
	1 主題設定の理由	
	2 本校の研究のあゆみ	
	3 研究の構想	
	4 研究の内容	
III	校内研修会〈講演〉	7
	1 「調べ学習」の指導について	
	2 プレゼンテーション指導について	
IV	校内研修会〈研修・研究授業〉	9
	1 研修会「探究的な学習」をテーマとした意見交換	
	2 研究授業（第3学年） 6月30日実施	
	3 研究授業（第1学年） 1月31日実施	
V	読書科及び総合的な学習の時間における各学年の実践事例・教科における実践事例	14
	第1学年 「SDGsに関する調べ学習とプレゼンテーション」の取組	
	第2学年 「自分の住む、この江戸川区を調べよう！」の取組	
	第3学年 「卒業研究」の取組	
	美術科（第1学年）「アーティストレポートを作ろう」の取組	
VI	研究の成果と課題	27
	1 読書科・総合的な学習の時間に関するアンケートの結果	
	2 校内研修委員による実践の振り返り	
	3 総合考察	
VII	おわりに	31

【研究主題】 探究的な学習活動を通して

主体的に学び続けるための資質・能力を高める指導の工夫

—読書科・総合的な学習の時間における授業改善とカリキュラム・マネジメント—

I はじめに

現在、人工知能(AI)を始めとする先端技術の飛躍的な進展や気候変動、グローバル化、少子高齢化等の影響により、社会が急激に変化しています。このような中、高度化・複雑化する諸課題に対して、解決する意欲のある人材や、多様性を受容し他者と協働する能力のある人材が強く求められています。

これらの社会的ニーズに応えるために、学校では子供たちに自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出せる力を育む教育活動を重視し、取り組んでいます。

本校は、令和5年度 江戸川区教育課題実践推進校の指定を受け、探究活動を通して主体的に学び続けるための資質・能力を高める指導の工夫に取り組みました。

研究推進にあたり、令和2年度に本校で取り組んだ読書科及び総合的な学習の時間のカリキュラムへの改善を図り、自ら考え、表現する力の向上を目指しました。さらに、区の教育施策の活用も視野に入れて、より多様な視点から学力向上を図るためのカリキュラム・マネジメントの工夫にも意欲的に取り組みました。

この1年間は、研究主任及び研究推進担当者を中心に試行錯誤を重ね、全教職員が授業改善を工夫し研究を進めてまいりました。ここに研究の報告をさせていただきます。皆様の忌憚のない御意見をいただければありがたく存じます。

結びに、御指導賜りました講師の皆様へ深く感謝申し上げます。また、このような研究の機会をいただきました江戸川区教育委員会の皆様へ厚く御礼申し上げます。

校長 大久保 和彦

II 研究内容

1 主題設定の理由

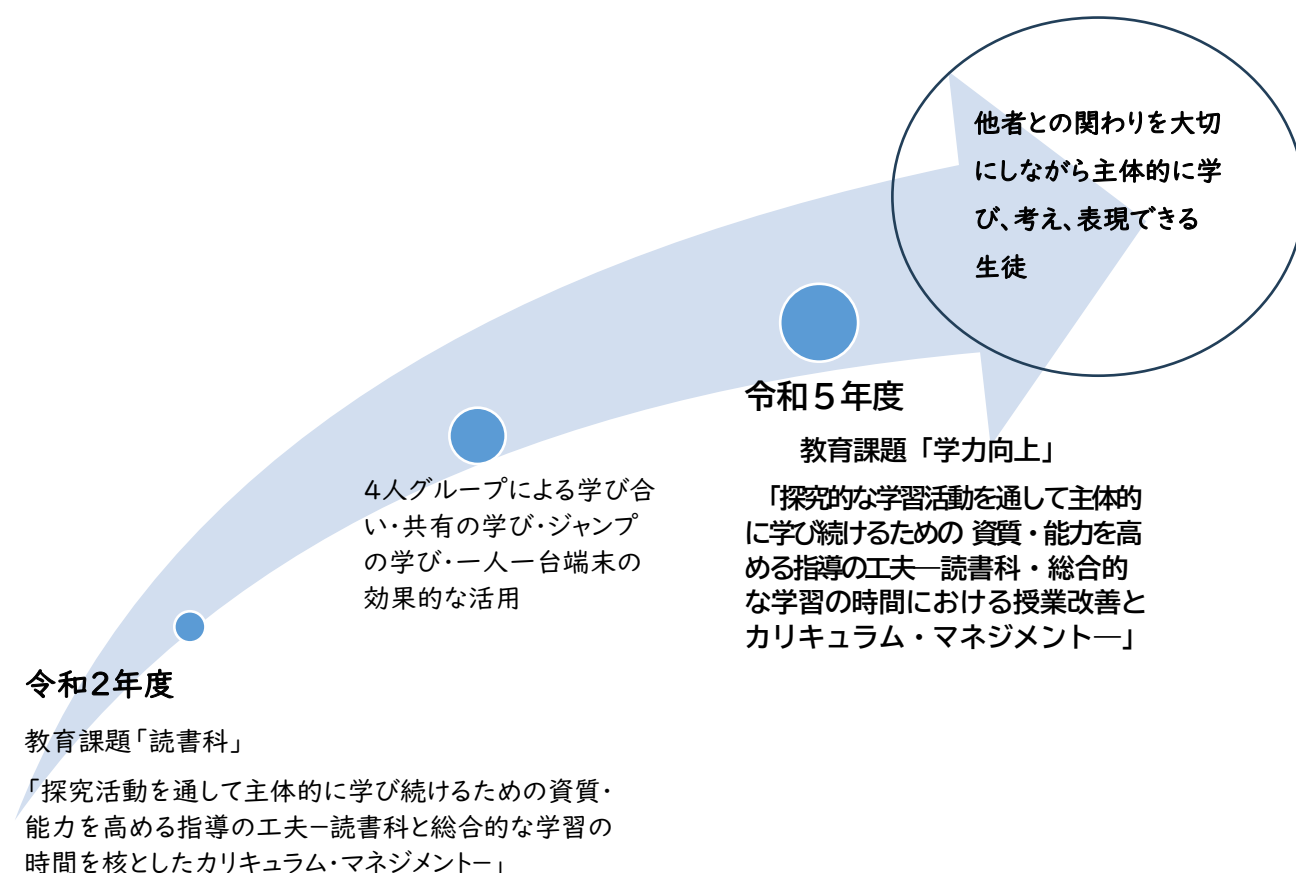
本校では、令和2年度に、江戸川区教育課題実践推進校の指定を受け、「探究活動を通して 主体的に学び続けるための資質・能力を高める指導の工夫—読書科と総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメント—」をテーマとして研究を進めた。

前研究から3年を経て、人工知能(AI)の飛躍的な進化等により、ますます社会構造や雇用環境は大きく、急速に変化しており、まさに予測困難な時代を迎えようとしている。このことから、主体的・協働的に社会と向き合う子供たちを育てるためにも、ますます、江戸川区独自の読書科や総合的な学習の時間における学習の質的充実を図ることが教育活動の中で重要であると考えた。

そこで、これまでの本校の研究成果を生かし、未来を切り拓く生徒の確かな学力、資質・能力を育成するために、読書科・総合的な学習の時間を核として、授業改善とカリキュラム・マネジメントを推進していくことを本年度の研究テーマとした。

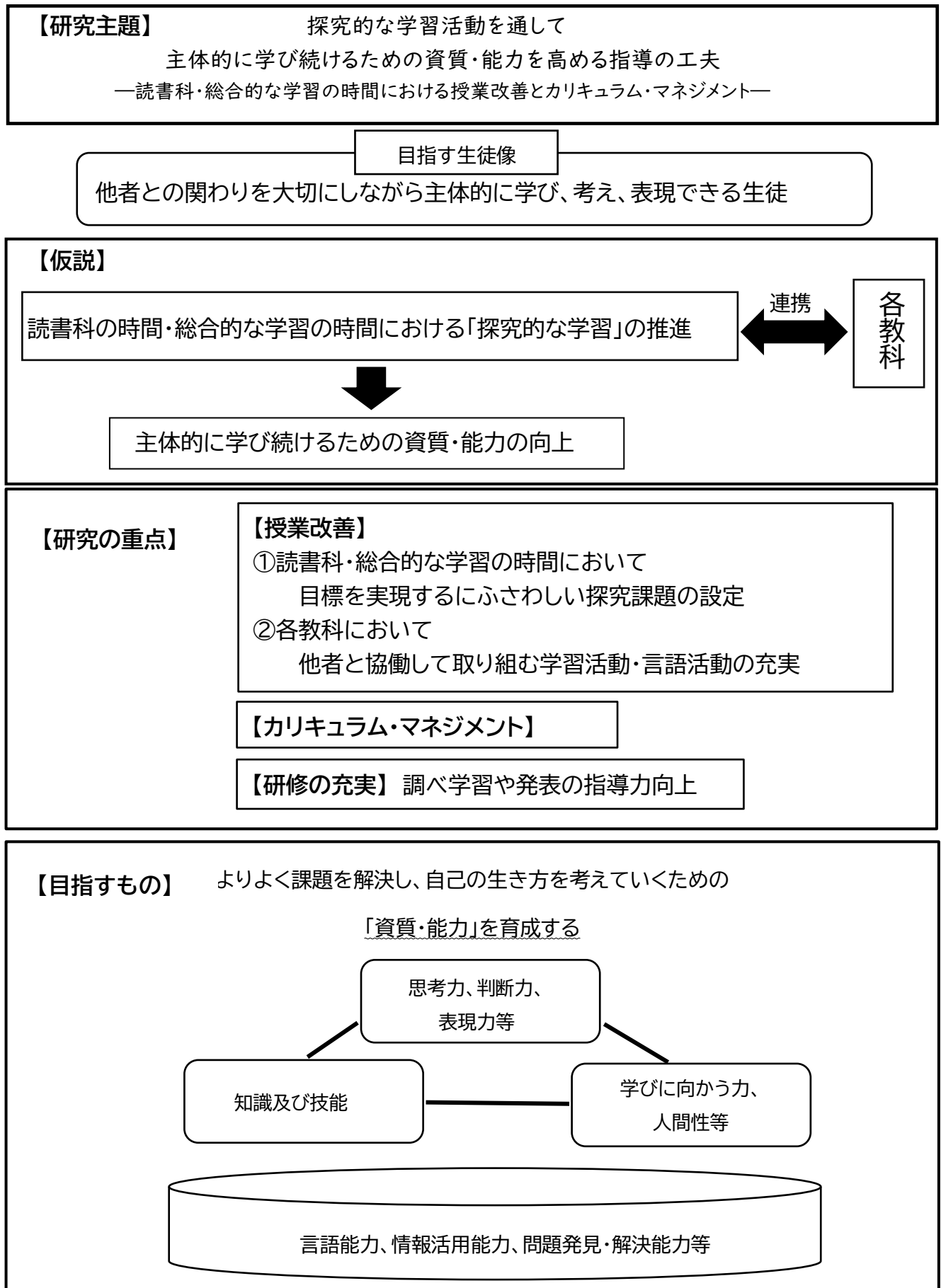
また、社会で生きて働く資質・能力を育成する上で、教科等の学習と読書科・総合的な学習の時間で学んだことや身に付けた内容が往還することが重要となる。このことから、本校では、教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力(言語能力・情報活用能力等)が生まれ、活用されるようにするために、各教科での指導の工夫を図ることを目指した。

2 本校の研究のあゆみ



3 研究の構想
 (1) 研究構想図

研究構想図



(2) 研究の仮説

- 1 読書科・総合的な学習の時間において、探究的な活動を核として学習を進め、調べ学習や発表・プレゼンテーション活動を積極的に取り入れる。その際に、生徒の興味・関心や地域の実態に合わせた探究課題を設定することで主体的に学び続けていくための資質・能力の育成を目指すのではないかと考える。
- 2 各教科においては、探究的な学習に必要な言語能力、情報活用能力の向上を図る取組を充実させることにより、学習の効果を高め、育成を目指す資質・能力を確実に身に付けることができるのではないかと考える。

(3) 研究の重点

①授業改善

- 1 読書科・総合的な学習の時間における、目標を実現するためにふさわしい探究課題の設定
- 2 各教科における、他者と協働して取り組む学習活動と言語活動の充実

②カリキュラム・マネジメント

各教科と読書科・総合的な学習の時間を往還するような全体計画の作成

③研修の充実

調べ学習の授業の進め方やプレゼンテーション指導力向上についての研修の充実

(4) 研究に向けた取組と検証方法

読書科・総合的な学習の時間	各教科等	アンケート・振り返りシート
<ul style="list-style-type: none">・読書科・総合的な学習の時間の全体計画の改善・調べ学習やプレゼンテーションに関する校内研修の充実・朝読書の充実、学校図書館や地域の図書館との連携	<ul style="list-style-type: none">・言語活動の充実・問題解決型学習の充実・授業、家庭学習でのミライシードの活用(ドリルパーク・ムーブノート・オクリンク等)・各教科の研究授業における研究テーマの実践	<ul style="list-style-type: none">・年2回 学習と読書の状況をみとるアンケートの作成、実施による検証・各教科や読書科・総合的な学習の時間での成果物、振り返り等の検証

4 研究の内容

(1) 授業改善

1 読書科・総合的な学習の時間における、目標を実現するためにふさわしい探究課題の設定

これからの社会では、自らが課題を決めて、その課題解決に向けて取り組み、その考えを他者に伝える力は、生涯にわたって主体的に学び続けていくために欠かせない資質・能力である。

読書科・総合的な学習の時間の目標に照らして、学習課題が探究的な学習活動となるように、各学年で発達段階を考慮した指導計画を立て、3年間を通して資質・能力を育成できるようにする。

特にSDGsに関連した「調べ学習」「プレゼンテーション」を主な探究課題として活動を進める。身近なことや自分の経験から、自分でテーマや調べ方を見付け、他者を意識して表現活動を行う学習過程を重視した授業改善を行う。

2 各教科における、他者と協働して取り組む学習活動と言語活動の充実

各教科においては、主体的・対話的で深い学びを進めるために、一方的な講義形式ではなく、学習活動に即して、ペアや4人グループ、班(6人)での活動を効果的に取り入れ、指導体制の工夫を行う。自らの考えを文章や図で表したり、発表したりすることにより、他者に向けて表現する力を育む指導に力を入れる。

(2) カリキュラム・マネジメント

各教科と総合的な学習の時間・読書科の時間を往還するような全体計画の作成

読書科や総合的な学習の時間で目指す資質・能力を育むためには、他教科等での学習や教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力の向上を目指した取組が重要である。

また、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力等の力は、全ての教科等の学習の基盤となると同時に、読書科・総合的な学習の時間において探究的な学習を進める上でも重要なものである。このことから、各教科の授業において、より一層これらの能力を向上させるための指導改善を目指して 研究を進める。

具体的には、言語能力の向上に関しては、国語の授業を中心に各教科で、文章を正しく記述する力や語彙力の向上を目指し、正しく文章を読み取る・聞き取る・書く・伝える力を総合的に育成する。

情報活用能力に関しては、各教科の中で、情報の効果的な活用や情報を比較する・分類する・関連づける学習が計画的に取り入れられるようにする。

まず、読書科と総合的な学習の時間の各学年の年間指導計画を作成した。各教科との関連を考慮しながら、読書科と総合的な学習の時間との関連をもたせる計画にした(表1)。

表1 読書科と総合的な学習の時間の3年間の指導計画

学年	読書科	総合的な学習の時間	各教科
第1学年	朝読書 ・校外学習関連図書の読書 ・『なるにはボックス』を含む	◇校外学習(エコプロ2023)の事前&事後学習～プレゼンテーションの力の向上～ 職業や自己の将来に関する課題(進路学習) →「キャリア・パスポート」(『生活と学習の手引き』)等 →「職業調べ」(『なるにはボックス』)	〈国語〉 お気に入りの一品を紹介する (6月)
	◇SDGs調べ学習 自分が興味関心のあるSDGsのゴールについて本や資料を探し、読む。 →学習新聞にまとめ、発表・掲示 学校図書室、中央図書館の利用		〈社会〉 世界の諸地域の調べ学習 (1学期)
第2学年	朝読書 ・江戸川調べ関連図書の読書 ・校外学習関連図書の読書を含む	◇林間学校の事前&事後学習～江戸川区とみなかみ町の比較を通して～	〈理科〉 地球温暖化についての小論文 (12～1月)
			〈英語〉 マッピングを活用した「私の好きなもの」スピーチ原稿作成 (11月)
第2学年	朝読書 ・江戸川調べ関連図書の読書 ・校外学習関連図書の読書を含む	◇林間学校の事前&事後学習～江戸川区とみなかみ町の比較を通して～	〈美術〉 アーティストレポート(6～7月)
			〈国語〉 弁論発表 (9月)
第2学年	朝読書 ・江戸川調べ関連図書の読書 ・校外学習関連図書の読書を含む	◇林間学校の事前&事後学習～江戸川区とみなかみ町の比較を通して～	〈社会〉 日本の各地方の課題を解決す

	1 単位時間で行う授業	◇江戸川調べ 自分が興味関心のある事柄について本や資料を探し、読む。 →レポートにまとめ、発表をする。 →「図書館を使った調べる学習コンクール in えどがわ」に出品 学校図書室、中央図書館の利用	◇職場体験及び事前&事後学習 職業や自己の将来に関する課題(進路学習) →「キャリア・パスポート」(『生活と学習の手引き』)等	る方法を提案する。(3月) 〈数学〉 解法の共通点や相違点を比較する。(年間) 〈英語〉 理想の人物のポスター作成とスピーチ(7月) 〈美術〉 マスコットキャラクター調べ(2学期) 〈保健体育〉 冬に持久走をする意義の調べ学習(1月) 〈技術〉 発電方法の調べ学習(3学期)
第3学年	朝読書	修学旅行関連図書の読書を含む	◇修学旅行(奈良・京都)の事前&事後学習 ~歴史と伝統文化、多文化共生~ 職業や自己の将来に関する課題(進路学習) →「キャリア・パスポート」(『生活と学習の手引き』)等 →「面接練習を通して自己を見つめ、将来を考える」	〈国語〉 「故郷」3人の登場人物像の中から1人を選び、人物像をキーワードで表す。自分と同じ人物を選んだ友達と根拠を質問し合いながら、情報を収集する。(12月) 〈英語〉 「大阪の観光地を案内しよう」調べ学習・発表(9月) 〈美術〉 立体装丁(2学期)
	1 単位時間で行う授業	◇修学旅行の事前学習 「私が知りたい奈良・京都」自分が興味関心のある場所について本や資料を探し、読む。 →新聞にまとめ、発表をする。 ◇卒業研究 自由にテーマを決めて研究→レポートにまとめる。 学校図書館、中央図書館の利用		

(3) 校内研修の充実

読書科・総合的な学習の時間の目標や内容を十分に踏まえて、全教員が共通理解を図り、指導技術の向上を図ることを目的として校内研修の充実を図る。「調べ学習」「プレゼンテーション」の指導に関して講演会を実施する。講演を通じて学んだことを指導に生かし、各学年が年に1回学習発表会を公開する。第2学年「江戸川調べ発表会」(11月)、第3学年「卒業研究発表会」(1月)、第1学年「校外学習エコプロ事後学習発表会」(2月)をそれぞれ実施する。

校内研究授業では、指導改善を図ることを目指して、研究授業を次の視点で実施し協議をする。

<p>≪研究授業で重視する研究に関わる視点≫</p> <p>① 主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>② 言語活動の充実</p> <p>③ 問題解決型学習</p> <p>④ 情報活用</p> <p>⑤ ICT活用</p>
--

Ⅲ 校内研修 〈講演〉

1 「調べ学習」の指導について

日時：令和5年4月28日(金)

講師：荒川区立教育センター 学校図書館スーパーバイザー 小川ひろみ氏



〈講演内容〉＊小川氏作成の資料より引用・抜粋

○調べる学習にチャレンジしよう「図書館を使った調べる学習コンクール」作品作りのポイント

▶調べる学習の進め方

- 1 調べるテーマを決めよう
- 2 調べる方法を考えよう
- 3 情報を集めて調べよう
- 4 情報を見やすく分かりやすく伝えよう
- 5 まとめの考察が一番大事(考察の箇所が感想にならないように指導する)
- 6 表紙作成、タイトルの工夫、コンクール応募規定

○調べ(探究型)学習の授業の進め方

- 1 調べ(探究型)学習で付けたい力→主体的に学ぶ力・情報活用能力
- 2 課題解決(探究型)学習の進め方～調べる学習コンクールの取組～
- 3 教室の授業で基礎力を育てる

問いや課題をつくる力・情報活用能力をつける

➡ ・単元や1時間の学習活動を「課題解決(探究)型」にする

- ・「できない」や素朴な疑問を丁寧にすくいあげる
- ・「なぜ」を活用し子供の思考力、表現力を育てる

- 4 振り返りが大切

講演を受けて(教職員アンケートより)

- ・調べ学習の基本的な進め方や生徒への指導・助言のポイントが理解できた。生徒が調べ学習のテーマやタイトル、方向性を考える際の助言の参考にしたい。
- ・日々の授業の中で課題解決・探究型の活動を計画的に実施していくことの必要性を強く認識した。日頃から、生徒自身が主体的に目標を設定することや、自らの考えを相手に伝えることを学習指導に取り入れていきたい。

2 プレゼンテーション指導について

日時：令和5年9月13日(水)

講師：日本IBM株式会社 フューチャーデザイン ラボ所長 高荷 力 氏



〈講演内容〉＊高荷 力 氏の講演内容・資料より引用・抜粋

○プレゼンテーションの発祥地・発表やスピーチとの違い

○プレゼンテーションは、相手を規定することが大事である。

だれのためにプレゼンテーションをするのか。→洞察

洞察—発見—企て—提案—合意

＊「企て」にパワーポイント等のツールがある。「合意」は評価ではない。

○プレゼンテーションは合意形成を目的とするコミュニケーションスキルである。

○プレゼンテーションは事前準備が大切である。

○生徒へのプレゼンテーション指導の方法

〈プレゼンテーションの流れ〉

1 要点を箇条書きにして整理する

2 論旨に沿った肉付けの準備をする

3 相手が知りたいことと、自分が伝えたいことの重なる点を意識する

4 情報を図解化する

5 資料の中に、ワクワクするポイントを仕込む(見た目の工夫、色、写真など)

6 話すときは、一人一人の目を見て話しかける

7 ショートセンテンスやシンボルメッセージを意識する(相手に持ち帰ってもらうもの)

講演を受けて(教職員アンケートより)

- ・プレゼンテーションと発表の違いや、相手が求めているものを提案、話ができるかどうかの方が大事ということが分かった。事前準備が大切という点は、授業と重なる点であり、今後に生かしていきたい。
- ・生徒への指導の際の視点はもちろんだが、自分自身が教員として「伝える、伝わる」ために必要なスキルが何かを知ることができた。また、「相手を想定したテーマ設定」ができれば、より生徒のプレゼンテーション能力を育てることができると思った。
- ・生徒に指導する時にも、プレゼンテーションとはどのようなもので、何がゴールで、どう準備していくかをしっかり伝えられるように生かしたいと感じた。

IV 校内研修会〈研修・研究授業〉

- 1 研修会「探究的な学習」をテーマとした意見交換 日時:令和5年5月31日(水)
研究を進めるにあたって、本校の生徒の現状を把握し、共通理解を図る目的で「探究的な学習」や「教科指導の工夫」に関して意見交換を行った。

【意見交換の内容】

- ① 教科指導における、生徒の言語能力や情報活用能力、問題解決能力に関する課題
 - ・問題文の意図や指示、文章の文脈や行間を読み取る力に課題がある。
 - ・体験や語彙、漢字の知識が不足している。
 - ・教科書や資料を自分で読む(黙読する)ことに苦手意識がある。
 - ・口頭の説明だけでは理解が難しい場合がある。
 - ・読解力に課題があり、計算はできるが文章題が苦手な生徒が多い。
 - ・論理的に相手に説明することや、順序だてて文章を書くことに課題がある。
- ② 教科書や資料集の記述を読み解く活動の時に工夫していること
 - ・教科書の文章を音読させる。
 - ・語句の意味や指示語の内容を確認する。
 - ・感想や意見の根拠を言葉で説明させる。
 - ・文章を表にして、視覚的にわかりやすく提示する。
 - ・文章の読み方のテンプレートを作り、読み方をルーティン化する。
- ③ 各教科における言語活動の充実、問題発見・解決に関わる具体的な活動例
 - ・(国語)個人の気づきを共有し、疑問に思ったことを分担して調べる。
 - ・(数学)自力解決で各自が考えた様々な発想をグループで共有する。
 - ・(英語) ペア活動やリテリング活動を充実させる。文章の要点を把握し、内容に対して自分の考えを述べたりする。
 - ・(理科) 天気予報を自分で作り発表する。予想や考察をタブレットで共有する。
 - ・(社会) 地理的・歴史的・事象の理由をグループで考え文章で表現する。
 - ・(美術) 「好きなアーティスト調べ」など、自分が興味のあることを調べてまとめる。
 - ・(保体) 課題に対する改善方法を話し合う。自分の生活にあてはめて考える。調べ学習、レポート、グループでのコーチングを通して、自分で考え、仲間に伝える活動をする。
 - ・(技術) プログラミングや製作活動における各工程すべての作業が問題解決型学習である。
 - ・(音楽) 合唱のパート練習の際に、自分たちで課題を見つけて取り組む。

【今後の授業における授業改善】

今年度、3学年ともに読書科・総合的な学習の時間において、自分が関心のあるテーマに対して調べ学習を行う。調べ学習を通して、主体的に学習に取り組み、深い学びの実現を図る。教科を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力の育成や読書科・総合的な学習の時間と教科での学習が往還することを意識して教育活動を進めることで共通理解を図った。

<p>教科 国語</p> <p>単元 書くこと「感覚を言語化する」</p> 	<p>単元目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○五感表現や比喻、オノマトペ等の表現技法を理解して用いることができる。 ○社会生活・学校生活から話題を設定し、五感表現を用いて自分の考えをまとめることができる。 ○周囲との意見交流を積極的に行い、自ら情報を収集、取捨選択して課題を解決することができる。 <p>研究のねらいに関わる視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒同士で【五感メモ】を見合い④<u>情報収集をする</u>。 ○【食材メモ】と【五感メモ】を用いて、おいしさの感覚を②<u>文章で表現する</u>。 <p>*【食材メモ】と【五感メモ】について 11ページ参照</p>
<p>教科 理科</p> <p>単元 「生命の連続性」</p> 	<p>単元目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生命の連続性について、細胞分裂の観察等を行い、その結果や資料を分析して解釈する。 ○生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだすことができる。 ○生物の種類の多様性と進化に関する事象・現象に進んで関わり科学的に探究しようとする。 <p>研究のねらいに関わる視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「マール」が何の動物の仲間か推測し、その④<u>根拠を発表する</u>。また、⑤<u>ムーブノートで考察をまとめて共有する</u>。 ○一人1台端末を使って調べた内容を根拠に、進化の理由を考察し、他者に②<u>意見を発表する</u>。
<p>教科 音楽</p> <p>単元 歌唱「ブルタバ」</p> 	<p>単元目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ブルタバ」の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。 ○「ブルタバ」の音楽を形作る諸要素を知覚し、それらが生み出す川の様子を考えることができる。 ○「ブルタバ」の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりや、音楽の意味や役割について考え、主体的・協働的に鑑賞に取り組む。 <p>研究のねらいに関わる視点</p> <p>場面ごとに表情を変える川の水の様子を、オーケストラやメロディでどのように表現しているのかについて①<u>ワークシートに自分の考えをまとめ、友達と話し合い、意見を共有する</u>。</p>

《研究授業で重視する研究に関わる視点》

①主体的・対話的で深い学びの実現

②言語活動の充実

③問題解決型学習

④情報活用

⑤ICT活用

【感覚を言語化しよう】

学習日 六月二十八日(水)

組番

☆今日の目標

今日の給食の「おいしさ」を言葉で表現する。

◇五感表現 & 比喩表現 & 擬音語・擬態語 を用いてみましょう。

手がかり

今日の給食の献立

V 聴覚 聴覚
IV 触覚 触覚
III 視覚 視覚
II 嗅覚 嗅覚
I 味覚 味覚
甘味・酸味・塩から味・苦み・旨味
香り・湯気
色・形・食材の切り方・盛りつけ
手触り・舌触り・食感・噛み心地・飲み込む感じ
音・食器のかすかな音

A 「さ」の音
B 「お」の音
C 「わ」の音
D 「う」の音

◇わたしが選んだ一品 ↓ ー ー ー ー

ステップ① 食材メモ

小松菜 たらすり身 たまご かつお節 あおのり 油揚げ 豚肉 豆腐 赤味噌 米
白ごま こんにゃく ごぼう 大根 えのき 人参 キムチ 長ネギ ごま油 しょうが もやし

ステップ② 五感メモ

V 聴覚	IV 触覚	III 視覚	II 嗅覚	I 味覚

☆ できるだけ多くの感覚を研ぎ澄ませ、おいしさを言葉で表現しましょう。

国語科ワークシート【食材メモ】【五感メモ】

活用方法と手順

- ①本時の目標と「五感」の確認をする。
- ②「自分が選んだ一品」について、主な食材を【食材メモ】を用いて確認する。
- ③学習用タブレットを用いて献立への理解を深める。
- ④「自分が選んだ一品」について、今日の給食で自分が食べた経験を思い出し、五感の項目に分類して【五感メモ】をつくる。
- ⑤同じ「一品」を選んだ生徒同士で【五感メモ】を持ち寄り情報を交流し合う。
- ⑥【食材メモ】と【五感メモ】を用いて、おいしさの感覚を文章で表現する。
- ⑦「自分が選んだ一品」のおいしさを4人班で発表し合う。
- ⑧数名が前に出て発表するのを聞きながら、「おいしさ」という感覚を言語で表現することの楽しさを味わい合う。

取組の結果

- ①学習用タブレットを用いて献立への理解を深める際に、「〇〇という言葉調べてら〜◇◇ということが分かった。」と、数名に発表させることで、何を調べてよいか分からなかった生徒への手がかりとなった。
- ②同じ「一品」を選んだ生徒同士で【五感メモ】を持ち寄り、教室を動きながら積極的に情報を収集することができた。
- ③【食材メモ】と【五感メモ】を用いて、おいしさの感覚を文章で表現することで、「おいしさ」という感覚を五感表現などを積極的に用いて表現することの楽しさを学ばせることができた。

教科 社会

単元 北アメリカ州



単元目標

- アメリカ合衆国の民族の多様性、農業、工業について理解している。地域的特色や課題を多面的にとらえて自分の言葉で説明できる。
- 世界に大きな影響を及ぼす北アメリカ州の産業や文化に着目しながら、それに関わる課題を主体的に追究しようとしている。

研究のねらいに関わる視点

- 産業の特色や世界に与える影響について教科書やワークシートを読みながら③自分の意見をもつ。①④人グループで考察し、班の考えをまとめる。班ごとに発表して全体でまとめる。
- 各自が考察を考える際に、⑤ムーブノートに記入してクラス全員の意見を共有する。

*ムーブノートの活用について 13 ページ参照

教科 数学

単元 あひるの運動場 ～関数の最大値～



単元目標

- ともに変化する数量の関係をとらえ、それを用いて表現及び考察することができる。
- 数量の関係を自分で作成したグラフから視覚的にとらえ、そこから求める解答の予測ができる。

研究のねらいに関わる視点

- 4人グループで活動をする。③問題解決型学習の中で解法を求めて①他者と意見を共有する。
- 発展的課題であっても既存の知識を使って答えを求めることができることに気付かせる。

教科 保健体育

単元 休養・睡眠と健康



単元目標

- 休養・睡眠の必要性を理解する。
- 健康な生活と疾病の予防について課題を見つけ、課題解決に向けて考え自分の言葉で表現する。

研究のねらいに関わる視点

- 休養の方法について、自分が行っていることをムーブノートに記入する。「広場」に送った各自の「学習カード」を表示しながら②グループ内で発表し、考えを共有する。
- ⑤ムーブノートで振り返りをすることで、③他者の意見や考えを知り、自分の意見を再考することができる。

≪研究授業で重視する研究に関わる視点≫

①主体的・対話的で深い学びの実現

②言語活動の充実

③問題解決型学習

④情報活用

⑤ICT活用

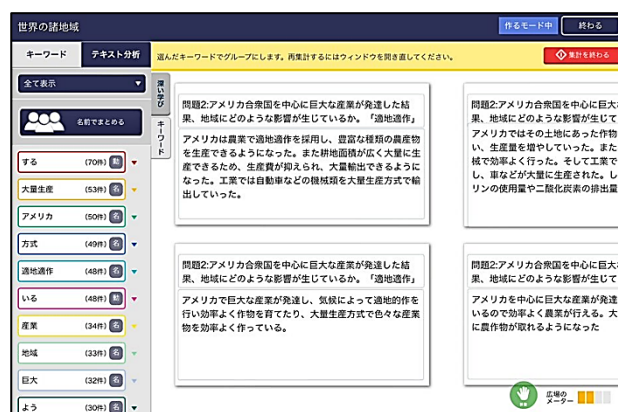
「ムーブノートの活用」 第1学年 社会（地理的分野）の場合

活用場面と背景

社会（地理的分野）の「世界の諸地域」では、各州に単元が分かれているが、その最後のまとめの部分では、学習内容を振り返り、知識を整理して、単元ごとに設定されている「問い」への考えを表現する場面がある。今までは書いたものを少人数グループで共有できたが、その際にムーブノートを活用することで一人一人が文章を考えて出した答えを全体で共有して、クラスメイトとの意見をより比較しやすくなった。

活用方法と手順

- ①「問い」への考えを共有するために、教師が「私のノート」にカードを授業前に作成する。
※その際、答えを記入するカードだけでなく、文章で表現するのが難しい生徒のために、ヒントとなるカード（資料）を合わせて準備する。
- ②授業時に教師がカードの配信を行い、生徒が「問い」への考えをカードに表現する。
- ③生徒が記入したカードを「広場」画面へ送信する。
- ④生徒がクラスメイトとの意見を比較して、分かりやすく表現している人には、「拍手」ボタンを押して、お互いに評価をする。
- ⑤他のクラスメイトの意見を見てどのように変わったかについて、生徒が「深い学び」ボタンを押すことで、具体的にどう変わったかを教師が把握する。
- ⑥「キーワード集計」を使い、単元に関わる言葉を正しく使えているかを教師が把握する。
- ⑦分かりやすく端的に表現している人の文章を数人発表することで、改めて全体でも共有を行う。
※プロジェクトでスクリーンに投影することで、クラス全員に見せて説明することができる。



ムーブノートの画面(左:私のノート 右:広場)

取組の結果

今回のように考えを表現するときには、少人数によるグループ共有も可能であるが、一人一人が表現した意見をクラス全体でまとめて共有するときムーブノートが有効であることが分かった。自分の考えを言葉にするのが難しい人でも、ムーブノートの広場でクラスメイトの考えを見ることで、自分の考えに近い意見や表現の仕方を参考にして記入することができるようになった。そして、「広場」でみんなの意見を交流する幅が広がり、言語活動の充実につながった。

V 読書科及び総合的な学習の時間における各学年の実践事例・教科における実践事例

第1学年 「SDGsに関する調べ学習とプレゼンテーション」の取組

1 ねらい

社会の一員として主体的に社会に参画し、自分の意見をもちながら他者と協働して課題の解決に取り組むことに楽しさが感じられる生徒を育てるために、次の資質能力の育成をねらいとした。

- (1) 課題に対する調べ方、資料の収集の仕方、情報のまとめ方を身に付ける。
- (2) 課題解決に向けて、情報を整理・分類し、考察する力を身に付け、相手に分かりやすくまとめたり、表現したりする。
- (3) 地球規模の問題を自分事として捉え、その解決に向けて自らの行動を考え、主体的に社会に参画しようとする態度を養う。

2 指導計画と取組の内容

(1) SDGs調べ学習

	日にち	探究の過程	活動内容
1	6/30(金)	【概要を知る】	調べ学習の方法や目的を理解する。
2	7/14(金)	【課題の設定】	自分が調べたいテーマを決める。調べる手段や方向性を考える。構成や参考文献の書き方を学ぶ。
3・4	夏休み～ 9/15(金)	【情報の収集】	構成や参考文献の書き方を学ぶ。 <u>アイデアシート(資料1)</u> を使い、書籍・インターネットなどを活用して調べてまとめる。
5・6	9/29(金) 10/6(金)	【整理・分析】 新聞づくり	調べたことをもとにして、自分の考えを分かりやすくまとめて表現する。
7	10/20(金)	【まとめ・表現】 グループ発表会	自分が調べてまとめ、考えたことに関して、聞き手に分かりやすく発表する。他の人が調べた内容を知り、 <u>感想シート(資料2)</u> に自分の考えを記入する。

1 SDGsのゴールの中で自分が調べてみたいもの

6. 安全な水とトイレを世界中に

新聞のタイトル(最後に書いてもOK)

SDG。目標!! 調べた人に 安全な水!

2 調べてみたいと思った理由

自分たちが当たり前で使っている水が他の国の人達、どの国にいても使えないように思っています。その国に合った、水が使えるように何かを調べたいと思った。

3 新聞の中で、どのような項目に分けて書くか

例: SDGsのゴールの内容・世界の現状・企業/国の取り組み・自分ができること・OOのグラフなど

- ・ 何人が水を使えないのか。→ 何人
- ・ 自分たちは何をして水を使えるようにしたのか
- ・ 何が不便になるのか
- ・ 日本と他の国を比べて
- ・ どの国が水を使えるのか

4 情報収集の方法(行う予定を記入) 例: 本、インターネット、アンケート、フィールドワーク、実験など

SDGs CLUB
E du Town SDGs

1 SDGsのゴールの中で自分が調べてみたいもの

12. つくる責任 つかう責任

新聞のタイトル(最後に書いてもOK)

身の周りのものを長く使おう!!

2 調べてみたいと思った理由

水遣りなども取り組むけれど目標だと思ってるから。廃品ロスなどは日々の自分の生活を見直せると思った。

3 新聞の中で、どのような項目に分けて書くか

例: SDGsのゴールの内容・世界の現状・企業/国の取り組み・自分ができること・OOのグラフなど

- ・ 捨てられてしまっている資源の量(国、グラフ、紙)
- ・ その他、の問題
- ・ SDG国連での取り組み
- ・ 自分たちにできること
- ・ 目標12のゴール内容

4 情報収集の方法(行う予定を記入) 例: 本、インターネット、アンケート、フィールドワーク、実験など

ipad

資料1 アイデアシート

表面

裏面

今日のめあて
自分自身が調べたこと、考えたことをわかりやすく班員に伝えよう。

1 自分の作品を紹介するときに必要な情報を箇条書きで記入しよう。
1 SDGsのゴールの中で自分が調べたもの
目標5のジェンダー平等を実現しよう

2 調べてみたいと思った理由
小学校でSDGsをやっていた時 目標5のジェンダーについて 言語がわからなかったため目標5のジェンダーを選びました。

3 どのように調べたか
タブレット 参考資料
本

4 新聞の中で読書感想文と工夫した点
ジェンダーとは何かとジェンダーギャップの図を見てみたいです。
工夫した所は図をどうしたら見やすくできるかを工夫しました。

5 調べてわかったこと、考えたこと
ジェンダーは若い女性(子ども)などをむりやり結婚させたり、社会制度が整っていないために保育園・幼稚園などをもっと増やす方がいいと私は言語で思ったことです。

③友達の発表を聞き終わったら、下の表に記入しよう。班員の新聞をもう一度見せてもらったり、よく読んでみる時間もとるとよいでしょう。

作成者(発表者)の名前	新聞の内容で良かった点・学んだこと
	<ul style="list-style-type: none"> 学校に行けて「なり児童」 アズ(東国アジア)はもともとすごい国 多くの国で表わされていた 図を色で表わされていて見やすかった
	<ul style="list-style-type: none"> 社会と文章にわかりやすいから社会で表わされていた。 暴力は命をうばうという事。 ポイント・募金などに参加する。 公共サービスが行きとどけられないのはお金が十分にないもの
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアなどボランティアでできる行動 食品ロスをなくす 社会がみずくれている 私たちができることを書いている(まよもつまくまよめかしている)
	<ul style="list-style-type: none"> (これは) 食べられる人はいるのに食品ロスがあるのが 捨てられている量 何に食べ物が捨てられているのか 食べ物を捨てる理由

④ 自分の作品を紹介したり、他の人の新聞を見たりして考えたことを書きましよう。

みんなよく図や社会で表現していた。
私たちができることなどを自分で考えたり言語がわからなかった。
おはつに色を使い分けしていた。

資料2 グループ発表会 感想シート



新聞づくりの様子



各班での発表会の様子



SDGs調べ学習 生徒の作品

(2) エコプロ事後学習

	日にち	探究の過程	活動内容
8	12/1 (金)	【課題の設定】	身近な社会、自然に関わる問題の中で、自分たちがより詳しく知りたいことの中から班ごとにテーマを決める。
9	12/15 (金)	【情報の収集】	エコプロ 2023 で学んだことを生かしながら調べ学習を進める。資料を読み、調べて分かったことをまとめる。
10	冬休み～ 1/12 (金)	【整理・分析①】	調べる内容を分担したり、意見交換をしたりすることで課題解決を目指す。
11	1/12 (金)	【整理・分析②】	調べたことをもとにして、相手に伝えるための工夫をしながらパワーポイントにまとめる。
12	1/16 (火)	【まとめ・表現①】	まとめ、 <u>考察(資料3)</u> を入れてパワーポイントを完成する。
13	1/26 (金)	【まとめ・表現②】 学級発表会	自分たちが調べてまとめ、考えたことに関して、聞き手に分かりやすく発表する。他の人が調べた内容を知り、自分の考えをより深め、 <u>ワークシート(資料4)</u> に感想を記入する。
14	2/14 (水)	【まとめ・表現③】 学年発表会	代表班が、プレゼンテーションに効果的な方法(目線・声量・強調など)を取り入れて聞き手に分かりやすく発表する。

考察のページ・原稿を作ろう 1月16日(火)

今日のめあて
これまでの調べ学習やエコプロ2023での学びを通して、「わかったことや自分たちの考え」をまとめよう。

①【個人の考察】
(1) 自分たちが選んだSDGsゴールに関して、これまでに学んだことでわかったこと、考えたこと

森の木や、植物を利用して、生き物、地球に優しい素材を使うことにより、二酸化炭素の排出量を減らしたり、有毒ガスの排出を防げる。また、私たちの日常で使うものを、素材を変えただけで、今は、前と同じく使えたりすることができる。

*書き終わったら、自分の考えの中で、一番伝えたいところに赤線を引こう。

(2) これからもっと調べたい、知りたいこと

自分たちの出したごみを再利用、再生可能エネルギーに使用できるのか。

② 班の中で順番に発表しよう。

③【班の考察】
それぞれの「一番伝えたいところ」を中心に、パワーポイントのスライド案を作ろう。簡易書きなどで簡潔に！(ホワイトボードに書く。)

④ 「考察ページ」の担当者は、パワーポイント資料や発表原稿を作成する。その他、自分の担当箇所の発表原稿を完成させる。

考察のページ・原稿を作ろう 1月16日(火)

今日のめあて
これまでの調べ学習やエコプロ2023での学びを通して、「わかったことや自分たちの考え」をまとめよう。

①【個人の考察】
(1) 自分たちが選んだSDGsゴールに関して、これまでに学んだことでわかったこと、考えたこと

SDGs 6の世界の現状で水不足に悩んでいる人が、自分が見ている以上に多いことです。そして日本はただ水を使っているだけではなく、再生、処理、防災、排水、節水、浄水、不燃物などで水をきれいにしていることがわかりました。

*書き終わったら、自分の考えの中で、一番伝えたいところに赤線を引こう。

(2) これからもっと調べたい、知りたいこと

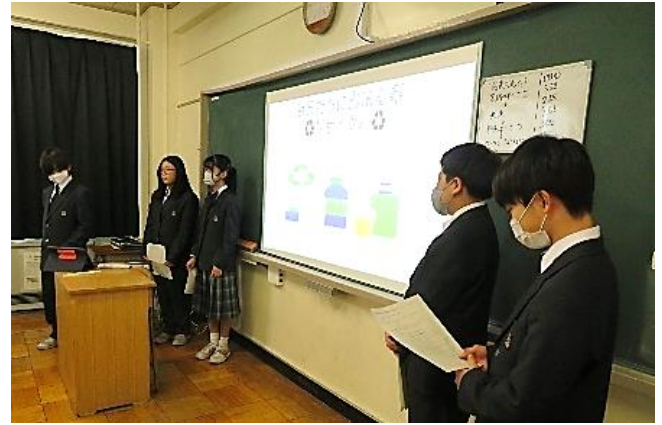
化石燃料で水を処理しているから、自分が見た化石燃料だけでなく、他の種類の化石燃料も使いたいと思いました。

② 班の中で順番に発表しよう。

③【班の考察】
それぞれの「一番伝えたいところ」を中心に、パワーポイントのスライド案を作ろう。簡易書きなどで簡潔に！(ホワイトボードに書く。)

④ 「考察ページ」の担当者は、パワーポイント資料や発表原稿を作成する。その他、自分の担当箇所の発表原稿を完成させる。

資料3 考察のページをつくるためのワークシート



↑ 学級発表会の様子

←資料4 校外学習事後学習
学級発表会感想ワークシート

校外学習事後学習クラス発表会（感想シート）
組 番 氏名（ ）

1 各班の発表を聞いて、聞き終わったら、感想を書きましょう。

班	SDGsゴール	感想（工夫されていたところ・よかったところ）
2班	目標15 「陸の豊かさを 守ろう」	・企業ごとにイラストや図が沢山入っていて、 分かりやすかった！ ・サイズをやることで理解が深まった。
4班	目標7 「エネルギーを 安全かつ持続可能 にしよう」	・目標7について詳しく説明していたので具 体的なゴールが分かり、そのあたりの企業説明が より理解できた。
5班	目標12 「つくる責任つか う責任」	・実際の紙を触りながら説明もわかりかっ たので、再利用は沢山の所で、色々な可能性 があると分かりました。
3班	目標15 「陸の豊かさを 守ろう」	・1ページに沢山の情報と資料が書いてあっ て現状のたり、対策のたり、よく知れた。 ・1分間に東家2個の森林が壊れている のが、とてもどういた。

2 一番良かったと思った班を2つ選んでください。 5 班 3 班

3 自分たちの班の発表を終えて、振り返りをしましょう。

① 班で協力してパワーポイント作成や発表の練習に取り組めた。	[A ・ B ・ C]
② パワーポイントの内容や言葉が聞き手に伝わるように、パワーポイントの構成や発表原稿を考えたことができた。	[A ・ B ・ C]
③ 【発表時】聞き手にわかりやすく説明するために、声の大きさや表情・目線に気を付けた。	[A ・ B ・ C]

4 今日の発表会を通して考えたことや感想を書きましょう。

自分は、目標13について発表しただけで、作る時、字ばかりだと難しいと思ったので、イラストや図などを沢山入れるようにした。発表の原稿は、もともとはもっと長かったものを、最低限、現状の大変さについて伝えられるよう、要約して発表できた！

↓ 感想記録用紙に記入している様子



3 成果と課題

生徒アンケートでは、第1学年の読書科・総合的な学習の時間の取組は総じて高評価であった。「読書科・総合的な学習の時間の取組はどうでしたか。」の問いに、高評価（とても楽しかった・楽しかった）が89%であった。（表2）また、「総合的な学習の時間や読書科では、自分で課題を立てて、情報を集め整理し、調べたことを考察したり、発表したりする学習に取り組めましたか。」の問いに、高評価（あてはまる・ややあてはまる）が75%であった。第1学年において、「SDGs調べ学習」「エコプロ事後学習」を行ったことは次年度につながる良い取組ができたと考えられる。

表2 「SDGs調べ学習」の取組はどうでしたか

1	とても楽しかった	34%	89%
2	楽しかった	55%	
3	あまり楽しくなかった	10%	11%
4	楽しくなかった	1%	

また、「SDGs調べ学習」に楽しさを感じた理由（複数回答可）として「ア」と「イ」が最も多く挙げられていた（表3）。生徒たちは、自分の興味・関心がある内容について自ら積極的に調べ、考察していくことによって内容をより深く理解することができた。

特に、「SDGs調べ学習」発表会後の生徒の感想には、「自分が調べたSDGsのゴール以外のことも知り私たちができることは沢山あることがわかった。もっと調べてみたい。」「それぞれ調べた理由や調べ方、調べて分かったことが違っておもしろかった。」「みんなに分かりやすく伝えるために、要約の仕方や文字の大きさ、口調にも気を付けたい。」など、多くの肯定的な感想、気づきがあった。調べ学習の経験を通して、探究活動の楽しさに気付いた姿を読み取ることができた。

表3 1「とても楽しかった」 2「楽しかった」 3「どちらかという楽しかった」を選んだ理由
楽しく学習に取り組んだ生徒 104 人の内訳（複数回答可）

ア	自分が決めたテーマを調べる活動が楽しかったから。	60 人
イ	自分で調べることでより詳しくわかったから。	42 人
ウ	いろいろな調べ方を探すことができたから。	30 人
エ	他の人の考えを知ることで自分の考えが広がったから。	41 人
オ	その他（自由記述） 自分で調べてまとめたことをグループで発表したり、他の人の調べたことを知ることができたりするのが楽しかったから。 自分が気になったテーマを調べることができたから。 周りの人に自分の考えを広めることができたから。	3 人

一方で楽しくなかった理由は表4のようになった。「難しい」「大変だ」の理由が多いが、取組の継続と肯定的な声掛けで達成感をもてるような指導をしていくことが大切だろう。

表4 4「あまり楽しくなかった」 5「楽しくなかった」を選んだ理由
楽しく学習に取り組めなかった生徒 13 人の内訳（複数回答可）

ア	テーマを決めることが難しかったから。	7 人
イ	自分で調べてもあまりよく分からなかったから。	4 人
ウ	調べ方がよくわからなかったから。	2 人
エ	調べ学習に興味をもてなかったから。	7 人
オ	自分の調べたことをまとめることが大変だったから。	8 人
カ	他の人の考えを聞いても自分の考えは変わらないから。	1 人
キ	その他	0 人

そして、本取組の3つのねらいについて見てみると、ねらい(1)課題に対する調べ方、資料の収集の仕方、情報のまとめ方を身に付けることに関しては、「SDGs調べ学習」「エコプロ事後学習」で作品を作る際に、多くの生徒が正確な引用、出典の提示について記述することができた。ねらい(2)課題解決に向けて、情報を整理・分類し、考察できる力を身に付け、相手にわかりやすくまとめたり、表現したりすることに関しては、書籍による情報を使用する場面が少なかったため、今後の課題であると考え。有用な資料を見つけ、要約したり多数の資料にあたり比較・検討したりする能力の育成に関してより一層の工夫をしていく必要がある。ねらい(3)地球規模の問題を自分事として捉え、その解決に向けて自らの行動を考え、主体的に社会に参画しようとする態度を養うことに関しては、生徒の成果物やアンケートなどから、主体的に取り組む姿を見て取れたことから、今後も探究活動を通して、主体的に物事に取り組む姿勢を育めるように指導を継続していく。

第2学年「自分の住む、この江戸川区を調べよう！」の取組

1 ねらい

- (1) 学校図書室や図書館の本を調べることによって、自分の住む江戸川区に関する理解を深める。
- (2) 林間学校で訪れる群馬県みなかみ町と比較することを通して、SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」の観点から自分にできることを考える。
- (3) 来年度の卒業研究に向けて、探究学習の仕方や発表の仕方を学ぶ。

2 指導計画・取組の内容

	日にち	探究の過程	活 動 内 容
1	4/14(金)	【概要を知る】	○今回の探究学習のねらいとゴールを知る。 ○タブレットを使って江戸川区について調べ、自分が興味をもてる項目を探す。
2	4/21(金)	【課題の設定】 疑問を持つ	○課題を決めて「企画書」(資料5)を提出する。
3	4/21(金) ~5/7(日)	【資料の収集①】 本を借りてくる	○学校図書室や中央図書館で、参考となる資料を借りてくる。
4	朝読書	【資料の収集②】 本を読み、必要な材料を集める	○朝読書の時間を利用して資料を読み込む。
5	5/12(金)		○必要な材料(文章・データ等)をメモしていく。
6	5/19(金)		○参考文献一覧に記入していく。
7	6/2(金)	【資料の整理・分析】	○書き溜めたメモを整理し、自分の視点・言葉でまとめる。
8	6/9(金)	【まとめ】	○初めの疑問に対する解答をまとめる。 ○表紙・目次、参考文献一覧を作り、1冊にまとめる。

2 学年読書科探究学習 「江戸川区を調べよう」 企 画 書

1 テーマ※サブテーマは疑問形で書きましょう。

テーマ

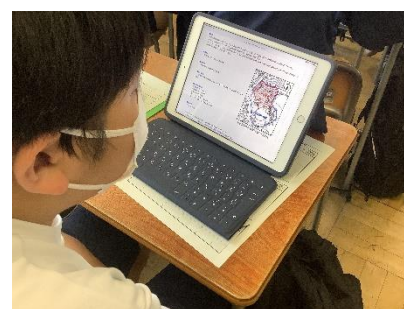
2 研究してみたいと思った理由(きっかけ・動機)

3 あなたの企画の目的・仮説

4 研究する具体的内容

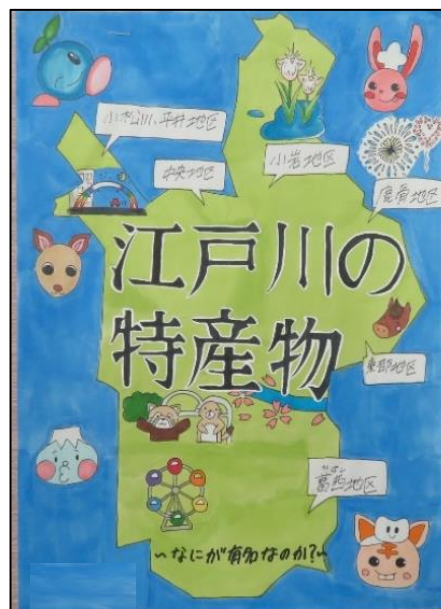
5 あなたの考えた企画を実施することで期待できること。

6 アンケート、フィールドワーク、実験などによる情報収集の方法



資料5 企画書

資料収集する様子



「江戸川調べ」冊子 生徒作品

	日にち	探究の過程	活動内容
9	6/30(金)	【みなかみ調べ】	○林間学校事前学習としてみなかみ町を調べ、A4版1枚にまとめる。
10	林間学校	【インタビュー】	○宿泊先で各自のテーマに沿ってインタビューをしてくる。
11	夏休み課題	【発表資料作り】	○江戸川区とみなかみ町を比較して、パワーポイントにまとめる。
12	9/29(金)	【発表準備】	○発表に向けて資料の体裁を整えたり、原稿を推敲したりする。
13	10/6(金)・ 13(金)	【プレゼンテーション 発表】	○各クラスで資料を投影しながらプレゼンテーションを行う。 ○聴衆は「聴き取りシート」(資料6)を記入する。
14	11/22(水)	【学年発表会】	○各クラス2名の代表による発表会。



江戸風鈴と上越クリスタル硝子

共通点と相違点

- ✓ 共通点
 - ・ガラス製
 - ・手作り
 - ・色鮮やか
- ✓ 相違点
 - ・江戸風鈴はワンパターン
 - ・上越クリスタル硝子は様々な技法がある
 - 様々なものを作れる

💡 共通点・相違点まとめ 💡
 どちらも **手作り**！機械では出せない良さがあるとわかった
 同じガラス製品でも、**技法や用途**は違う！

江戸川区とみなかみ町を比較したパワーポイント 生徒作品

第2学年 「調べ学習」「弁論」発表会 聴き取りシート

第1部 調べ学習 「内容」「資料のわかりやすさ」「話し方」について感想を書きましょう。

	発表者	タイトル	感想
1		江戸川区の葛西の里神楽 みなかみ町の太々神楽	
2		江戸川区の歴史 ～みなかみ町と比較して～	
3		江戸川区、みなかみ町の自然の楽しさとは？	
4		伝統工芸品の特徴	
5		江戸川区とみなかみ町の違い～国際交流について～	
6		江戸川区とみなかみ町の有名なもの	

第2部 弁論 「内容」「話し方」について感想を書きましょう。

発表者	演 題	
	「普通」とは	

資料6 聴き取りシート



「聴き取りシート」に記入する様子



プレゼンテーション発表（教室）



クラス代表による学年発表会（体育館）

3 成果と課題

- 来年度の卒業研究に向けて、探究学習の仕方や発表の仕方を学ぶことができた。特に、「まとめ方の流れ」「パワーポイントでの効果的なスライド作成」に関しては、今後幅広く応用ができる力がついたと思われる。
- △ 「江戸川調べ」を課題としたが、参考文献となる図書が少なく、タブレットを利用した資料集めが多くなってしまった。また、「江戸川区とみなかみ町の比較」についても、共通点や相違点が見つけにくいテーマも多く、課題設定には十分な検討が必要であった。
- △ 口頭での発表では、聴衆を意識した話し方の練習が不十分であった。

第3学年 「卒業研究」の取組

1 ねらい

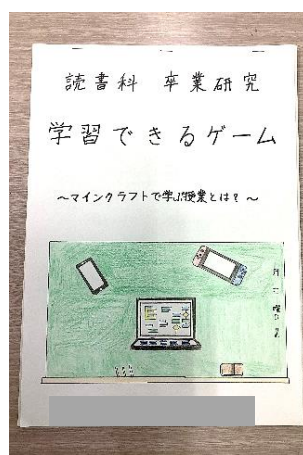
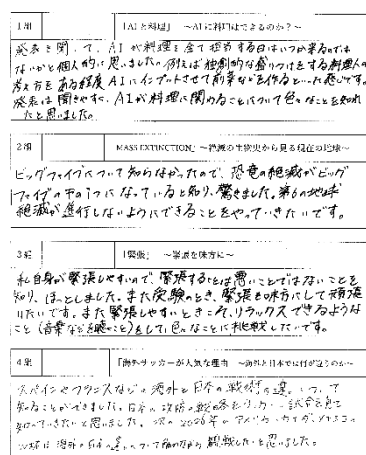
義務教育の最終学年として、自ら課題を設定し主体的に調べていく中で、新たな疑問に出会いさらに研究を深めていく。そのような探究と課題の解決に取り組むことに楽しさを感じることでできる生徒を育てるために、また生涯読書人としての基礎に資するために、次の資質能力の育成をねらいとした。

- (1) 課題に対する調べ方、資料の収集の仕方、情報のまとめ方を身に付ける。
- (2) 課題解決に向けて、情報を整理・分類し、考察する力を身に付け、相手に分かりやすく伝えることを目指してまとめたり、表現したりする。
- (3) 日頃から興味・関心を持っている事柄についてさらに詳しく知りたいと自ら欲し、複数の資料を準備し多方面から調べていく。仮説に対して果たしてどのような結論が導き出されるのか。また調べるにしたがって新たに見つかる疑問。その解決に向けて自ら主体的に探究していこうとする態度を養う。

2 指導計画と取組の内容

(1) 「卒業研究」の取組学習①

	日にち	探究の過程	活動内容
1	4/14(金)	【概要を知る】	オリエンテーションを通して卒業研究の概要を知る。調べ学習の方法や目的を理解する。自分が研究していきたいテーマを決める。
2	4/21(金)	【課題の設定】	テーマについて、調べる手段や方向性を考える。仮説を立てて企画書を作成する。
3	9/21(木) ～ 11/24(金)	【資料の収集①】	書籍・インターネットなどを活用して調べ、まとめていく。調べたことをもとにして、さらにそこから新たな疑問を見付け、自分の考えをまとめて表現する。
4	12/ 1(金) ～ 12/15(金)	【資料の収集②】	自分が調べ研究を深めたことに関して考察を加える。考察を入れて冊子を完成する。学級において各研究冊子を移動回覧し合う。他の人が調べた研究内容を知り、探究学習の楽しさ、成果を確認し合う。



卒業研究 生徒作品「表紙・参考資料」

(2) 卒業研究完成後の事後学習 ②

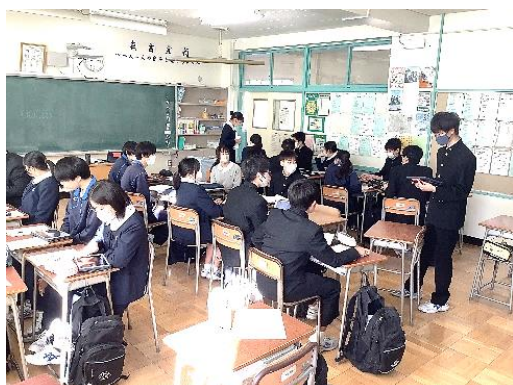
	日にち	項目	活動内容
5	1/12(金)	【発表準備】	学級発表会に向けて、「研究の動機」「仮説」「調べた結果からの新たな気付き」「伝えたいこと」をパワーポイントにまとめる。
6	1/15(月)	【学級発表会】	教室をABCの3班に分けて発表を行う。発表を聞いて記録シート(資料7)にメモをとる。各班2名の代表者を投票で選び、6名が前に出て発表をする。学級代表1名を選出。
学年代表4名、司会・運営(国語係)によるプレゼンテーションリハーサル			
7	1/19(金)	【学年発表会】	1名のプレゼン発表が終了すると、ステージ上の発表者同士の「質問タイム」に入る。疑問やさらに詳しく聞きたいことを質問しながら、理解を深め合う。その後フロアの一般生徒からの挙手による質問に発表者は回答する。発表会終了後、生徒は教室で個々の発表者に向けて感想シート(資料8)に感想を記入しながら自分の発見を振り返る。



卒業研究学級発表会 (5班 & 6班)

氏名 ()	MEMO	記録日
動物愛護 ～なぜ保護犬、保護猫ができたのだろうか～		
外来生物の危険 ～外来生物の被害とは？～		
日本の鉄道 ～鉄路に認められたわけとは？～		
寿司について ～毎日の食事はそれぞれ違うのか～		
パリコレ ～パリコレの歴史はなぜ面白いのか～		
学習できるゲーム ～オンラインソフトで学ぶ歴史とは？～		
考古学 ～歴史と日本の違い～		
感情と体の様々な関係性 ～呼吸、体は感情と連動するの？～		
異期表と電子 ～異期表にはどのような特徴があるのだろうか～		
ゲームの世界 ～ゲームが盛り上がる理由はなぜか～		
「夢の国」の経済復興 ～何故も好きになるTDRにはどのような工夫がされているのか～		

資料7 記録シート



卒業研究 学級発表会の様子



↑ 学年発表会での発表の様子
ステージ上の発表者同士の質問タイム

資料8

発表を聞いて知ったこと・考えたこと
・感想を記入するシート →

第3学年 読書科「卒業研究」学年発表会	
4人の発表を聞いて、知ったこと・考えたこと・感想などを記入しましょう。	
1組	「AIと料理」 ～AIに料理はできるのか?～ 発表を聞いて、AIが料理を全て担当する日はいつ来るのか、 怖いかと個人的に思いました。例えば独自の食盛りつけをする料理人の 考えをある程度AIにインプットさせて前菜などを作らせた感じです。 発表を聞いて、AIが料理に関わることで色々なことを知 れたと思いました。
2組	「MASS EXTINCTION」～絶滅の生物史から見る現在の地球～ ビッグファイブについて知らなかったため、恐竜の絶滅がビッグ ファイブの中の一つになっていると知り、驚きました。第6の地球 絶滅が進行しはじめることができることをやってきました。
3組	「緊張」 ～緊張を味方に～ 私自身が緊張しやすいので、緊張するには悪いことではないことを 知り、ほめました。また受験のとき、緊張を味方にして頑張 りたいです。また緊張しやすいときこそ、リラックスできるような こと(音楽などを聴くこと)をして、色々なことに挑戦したいです。
4組	「海外サッカーが人気な理由」～海外と日本では何が違うのか～ スペインやフランスなどの海外の日本の戦術の違いについて 知ることで学びました。日本の攻守の戦術をサッカーの試合を見て 知ってみたいと思いました。次の2026年のアメリカ、カナダ、メキシコ のW杯は海外の日本の違いについて観戦したいと思いました。



学年代表による「卒業研究発表会」の様子

3 成果と課題

卒業研究の資料は各自、日を追うごとに増えてい
た。調べを進めれば進めるほど、さらに疑問が見付か
り、それを調べるためにさらに資料を探し、教室の机の
横に下げた資料袋が膨らんでいる様子が見られた。

それだけ、生徒が夢中になって調べるようになったこ
と(表5、表6)が成果だといえる。

表5 「卒業研究」の取組はどうでしたか

1	とても楽しかった	40%	91%
2	楽しかった	51%	
3	あまり楽しくなかった	7%	9%
4	楽しくなかった	2%	

表6 1「とても楽しかった」 2「楽しかった」 3「どちらかという楽しかった」を選んだ理由
楽しく学習に取り組んだ生徒 102 人の内訳(複数回答可)

ア	自分が決めたテーマを調べる活動が楽しかったから。	66 人
イ	自分で調べることでより詳しくわかったから。	63 人
ウ	いろいろな調べ方を探すことができたから。	11 人
エ	他の人の考えを知ることで自分の考えが広がったから。	18 人
オ	その他(自由記述) ◇知りたかったことを詳しく調べられるきっかけにできたから。 ◇他の人の卒業研究の発表を聴くのが楽しかったから。 ◇自分の興味があることをとことん調べることができたから。 ◇自分が興味をもったことについて深く学ぶことができたから。 ◇他の人の発表を聴き自分が調べたことと重ね合わせることができたから。	5人

一方で楽しくなかった理由は表7のようになった。「難しい」「まとめるのが大変だ」の理由が多い。生涯読書人としての基礎に資するためにも書籍資料を選び、読み込み、新しい知識と気付きを得る喜びを生徒自身が感じられることを目指し、小中学校が今後一層読書科・総合的な学習の時間の連携を図っていくことが肝要である。

表7 4「あまり楽しくなかった」 5「楽しくなかった」を選んだ理由
楽しく学習に取り組めなかった生徒9人の内訳(複数回答可)

ア	テーマを決めることが難しかったから。	8人
イ	自分で調べてもあまりよく分からなかったから。	1人
ウ	調べ方がよく分からなかったから。	3人
エ	調べ学習に興味をもてなかったから。	5人
オ	自分の調べたことをまとめることが大変だったから。	6人
カ	他の人の考えを聞いても自分の考えは変わらないから。	2人
キ	その他(自由記述) ◇物事をまとめるのが苦手だったから。	1人

「自ら疑問を見いだすこと」「課題を解決するために仮説をたて、資料を探すこと」「調べたことをもとにさらにそこから新たな疑問を見いだすこと」「その疑問の解決に向けて主体的に探究していくこと」を総合的に学ぶことができる読書科「卒業研究」の取組は生涯にわたる学びの基盤となる資質・能力をしっかりと身に付け、発揮できるようにしていくためにたいへん価値ある学びである。探究的な学習に挑み、課題解決に向けて試行錯誤しながら取り組み、互いの進捗状況の発表や、完成後の発表を聴き合う。さらに他者の発表に対して新たな疑問や興味を見だし、質問を投げかける。そして発表者はその質問に対して真摯に向き合い回答をしていく。これら相互に関わり合うことを通して総合的な学習の時間においてもその育成を目指す三つの柱であるところの「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」は醸成されていくものと考えられる。

美術科（第1学年） 「アーティストレポートを作ろう」の取組

1 ねらい

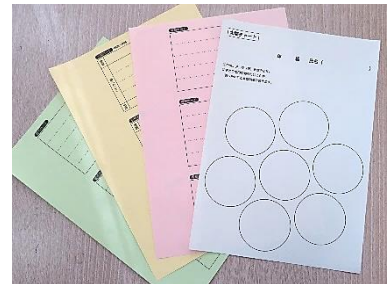
- (1) 自分の興味のある美術家や建築家、デザイナーについて調べ、美術作品や作家についての知識を深め、芸術文化への関心を高める。
- (2) 調べた情報を整理・分類し、自分の考えを広げるとともに、考察できる力を身に付け、相手に分かりやすくまとめたり、表現したりする。

2 取組の内容

第1学年の美術科では夏季休業中の課題として、好きなアーティストについて調べ、情報を整理し、調べたことから自分の考えをまとめ、A4サイズの紙に表現するというものを設定している。

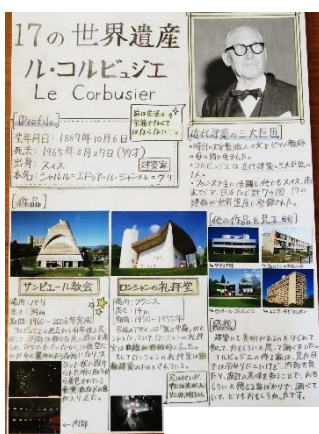
本取組では、生徒たちにあらかじめ調べる学習の流れを理解してもらうために、任意の「身近なテーマ」を設定し、調べる学習の練習として事前学習に取り組んだ。

- ① 調べる学習の基本である、「テーマを決める」「テーマについて知りたいことや疑問に思ったことを挙げる」「調べて分かったことを引用する」「調べたことを要約する」「考察を書く」という一連の流れを踏まえた短時間の学習活動を行った。
- ② 学習活動の中で、著作権の基本として「出典」を明記し、奥付を見ながら書名、著者、出版社名を記載するように指導を行った。



事前学習は学校図書館で行い、本で調べた内容をもとにワークシートに取り組んだ。

- ③ 事前学習を踏まえ、それぞれが調べたい作家を決め、「アーティストレポート」を作成した。



3 取組の成果

- ・学校図書館での事前学習では、目的に応じて適切な資料を見つけ引用する過程で、新たな知識や情報を得て、自分の考えを広げることができた。
- ・得た情報を整理し、要約したり考察したりする事前学習の経験を生かして、「アーティストレポート」でも分かりやすくまとめ、表現することができた。

VI 研究の成果と課題

本研究の成果を、1 生徒アンケートの結果 2 校内研修委員による振り返り 3 総合考察の順序でまとめるとめる。

I 読書科・総合的な学習の時間に関する生徒アンケートの結果

(I) 読書に関する意識

読書に関するアンケートでは、一日の読書時間と学校図書館、地域図書館に行く頻度を調査した。

朝読書では 10 分間の読書時間を設けており、その時間では集中して読書に取り組む姿が見られるが、それ以外での読書時間は 0～30 分以内が約 80%という結果だった(表8)。中学生として部活動や学習で多忙になる中、読書時間が確保できなかつたり、SNSの普及などにより読書への意識が高まらなかつたりすることが理由として考えられる。今後、朝読書での取組が、普段の読書時間につながるような工夫が必要であるとする。

質問1：1日の中で、読書をする時間はどのくらいですか。(朝読書は含まない)

表8 第1回調査(5月実施)*第2回は調査なし

	0～30分	30分～1時間	1時間以上
1年	73%	21%	6%
2年	80%	15%	5%
3年	80%	17%	3%

学校図書館の利用頻度に関しては、学年によってばらつきがあるが、第1学年の数字に着目すると第1回から第2回で大きく差があることが分かる。「ほとんど行かない」が第1回 40%から第2回 68%となっている(表9・表10)。小学校から中学校になり、学校図書館の利用頻度が下がることは様々な要素があるだろうが、少しでも学校図書館を活用できるような取組が必要であろう。例えば、朝読書の時間に、各学級が交代で学校図書館を利用し、本に触れる機会を増やしていくような提案をしていく。

質問2：学校図書館に行くのはどれくらいですか。(過去1年間で)

表9 第1回調査(5月実施)

	ほとんど行かない	月に1・2回	週に1回以上
1年	40%	27%	33%
2年	56%	24%	20%
3年	80%	15%	5%

表10 第2回調査(11月実施)

	ほとんど行かない	月に1・2回	週に1回以上
1年	68%	22%	10%
2年	74%	13%	13%
3年	77%	11%	12%

地域図書館の利用頻度に関しては、第1回、第2回ともに「年に数回」という層が最も多い(表 11・表 12)。本校の近くにある中央図書館との連携を図り、調べ学習の際の利用や普段の読書の啓発に努めたい。令和5年度は、第1学年が令和6年3月8日に中央図書館訪問を行う予定である。生徒が地域図書館を活用できるように今後も工夫をしていく。

質問3：地域の図書館に行くのはどれくらいですか。(過去1年間で)

表 11 第1回調査(5月実施)

	全く行かない	年に数回	月に1・2回以上
1年	26%	47%	27%
2年	40%	41%	19%
3年	41%	51%	8%

表 12 第2回調査(11月実施)(今年度4月から11月まで)

	全く行かない	年に数回	月に1・2回以上
1年	29%	56%	15%
2年	34%	52%	14%
3年	21%	50%	29%

(2) 探究活動への取組状況

「読書科・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて、情報を集め整理し、調べたことを考察したり、発表したりする学習に取り組めましたか。」の問いに、高評価(あてはまる・ややあてはまる)が全校平均で81.2%であった。また「あてはまる」と答えた生徒の割合は第1学年25.6%、第2学年30.5%、第3学年65.6%となっており、学年が上がるにつれ、増加している(表 13)。特に第3学年では、肯定的な回答が90%を超えていることから、多くの生徒が課題に主体的に取り組んだことが分かる。学年を経るに従い、生徒の取り組む意欲や、取り組んだ後の充実感も高まっていることから学校全体として好循環で読書科の取組が継続できていると考えられる。

質問4：読書科・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを考察したり、発表したりする活動に取り組めましたか。		あてはまる	ややあてはまる	合計
	1年	25.6	49.6	75.2
	2年	30.5	48.4	78.9
	3年	65.6	24.5	90.1
	全体	40.1	41.1	81.2

表 13 探究活動への取組状況

2 校内研修委員による実践の振り返り

令和6年2月、校内研修委員（各学年2名）と校長・副校長で本研究の振り返りを行った。

令和2年度の研究を進めた当初は、教職員がESDカレンダーや、4人組グループ等について学び、手探りで実際に指導に取り入れながら教育活動を進めてきた。その後、1年ごとに積み上げられた成果が、今となっては学校全体の教育活動に生かされ、定着していると感じる。ESDカレンダーが形式的なものではなく、教職員が共通理解を図ることで、実際の取組として、各教科・各領域をつなげたり、相乗効果を生み出したりすることができている。今年度は、これまでの取組を生かしながら、調べ学習、主体的・対話的な学習が本校の大きな特徴となって研究の成果を見ることができた。

今年度は、江戸川区独自の読書科において、探究的な学習の推進を目標として「調べ学習」に力を入れて研修をした。3年間を見通した取組として、どの学年でも、「調べ学習」あるいは「卒業研究」とともに、「学級発表会」「学年発表会」を行うことができたことは、学校全体にとって大変有意義であった。個人の学びを深めることと、他者との関わり合いで学びを発展させることが読書科や総合的な学習の時間において実現できた。

また、全教科で実践している4人班の「学び合い」のスタイルが、読書科の取組にも好影響を与えているということである。読書科・総合的な学習の時間に、調べ学習やお互いの作品を紹介し合う時に、自然と話し合ったり質問し合ったりする場面があった。授業時に「学び合い」の場面をできるかぎり設定することで、対話的な活動が活発になり、探究活動の質の向上につながっていると考えている。

3 総合考察

(1) 研究主題に対するまとめ

本校は、これまでも、他者との関わりを大切にしながら主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成を目指し、主体的に取り組む力を向上させることを目標に研究に取り組んできた。今年度は、令和2年度の研究成果を生かし、江戸川区独自の読書科と総合的な学習の時間を、教科等横断的なカリキュラムの核として、探究的な学習活動のさらなる推進を目指して研究を行った。特に、3年間を通して、段階的に「調べ学習」や「プレゼンテーション」の力が育成できるように工夫をし、各教科の中でも、言語活動や調べ学習、学び合い、発表を効果的に取り入れるようにした。

調べ学習の進め方やプレゼンテーションの方法についての校内研修での講演会は、生徒に指導する際に大いに参考になった。研修内容を生かして、生徒に指導することで、生徒が学習の見通しが立てやすくなり、達成感を感じるにつながったと考える。探究的な学習には、自分で課題をもち、自分が解決の方向性を決めていくという特長がある。調べ学習やプレゼンテーションを学習課題とすることで、生徒は探究を深めることができた。

この1年間、調べ学習や卒業研究を通して、生徒が自ら課題を考えて、試行錯誤しながら解決に向かう姿を多くの場面で見ることもできた。

第1学年では、校外学習の事後学習を進める際に、班で学んだことや考えたことをまとめて発表をした。生徒は、「仲間と一緒に作って、まとめる力、意見や案を出す力がついたと思う」「良い発表ができてとてもうれしく、楽しかった」と感想を述べており、協働して物事に取り組む楽しさや充実感、達成感を得ることができたようである。

第2学年の「江戸川調べ発表会」や第3学年の「卒業研究発表」でも、「自分の考えを他の多くの人に伝えたり、他の人の考えを聞いたりすることが楽しかった」という意見が多かった。これからの社会における課題は決して一人で解決できることばかりではない。生徒は、他者と関わりあうことで、どのような成果が生まれるか、どのような気持ちになるのか多いに感じ取ったのではないかと考える。

探究的な学習を支える言語能力・情報活用能力・問題発見・解決能力等は、各教科を含めた全教育課程を通じて育成していかなければならない。今後も、読書科・総合的な学習の時間と教科等に相互に関連付けていくことで、より一層これから求められる学力の向上につながるものとする。

今年度は、探究的な学習活動の推進の方法を、全教員が共通理解し、生徒が3年間を通した活動に取り組むことができたことが研究の大きな成果であったと言える。

(2) 今後の課題

- ① 調べ学習では、調べて分かったことを文章にするだけでなく、生徒自身の具体的なエピソードや学習の結果生じた自身の行動の変容なども盛り込むと、読み手や聞き手の心に響く作品となる。現状でできることや実体験を意識して学習を進めていくように指導ができるとうい。また、プレゼンテーションの際に相手を意識した話し方を意識させ、相手に分かりやすい構成が作れるように指導の改善を図る。
- ② 思考ツール(マッピング、チャートなど)の活用場面を各教科に広げていく。
- ③ 生徒自らがフィールドワークやインタビュー活動を行う機会が少なかった。生徒自身が、ICTを活用してデータを集めたり、インタビューをしたりすることも今後取り入れていきたい。
- ④ 生徒が読書に親しみ、本からの情報をもとに調べたことをまとめていくことのできるような工夫が必要である。インターネットで調べた情報を精査できるリテラシーの向上を指導するとともに、学校図書館、地域図書館との連携にも力を入れていきたい。
- ⑤ 本研究では、小学校での読書科の取組状況、生徒の学習の到達度等の把握が不十分だった。小学校での成果を生かして中学校での学習につなげるために、小中連携をより一層深めていく必要がある。

Ⅶ おわりに

今年度、本校では、令和2年度の研究を踏まえて、読書科と総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントにより、いかに主体的に学び続けるための資質・能力を高められるかを、各学年の実践をもとに研究を進めました。今回、1年間の集大成として、このように研究紀要を完成させることができました。生徒が探究活動の重要性を知り、成長していく姿をうれしく思うとともに、教員も読書科の取組を工夫して実践する中で、一段と成長していったと考えています。この研究を基にして、「主体的に学び続ける」生徒を育成するための教育活動を今後も継続していく所存です。最後になりますが、この研究に携わっていただいたたくさんの関係者の皆様方に感謝を申し上げ、終わりの言葉とさせていただきます。

江戸川区立松江第三中学校

〒132-0021 江戸川区中央1丁目20番地1号
TEL (3651) 0043 FAX (3651) 9350